



人間における

笑いには医力がある——。そう提唱するのは医学博士の高柳和江さんと、筑波大学名誉教授の村上和雄氏である。医学的見地から、かたや遺伝子工学の見地から、ともに「笑い」を科学してきたお二人に、笑いが人間に与える影響を語り合っていた。

笑いの研究

対談

癒しの環境研究会世話人代表・医学博士

高柳和江 & 村上和雄

筑波大学名誉教授

たかやなぎ・かずえ——神戸大学医学部、徳島大学大学院卒業。昭和52年からクウェートのイブン・シナ病院で小児外科医として10年間勤務。亀田総合病院院長補佐・小児外科医長、米国アイオワ大学病院長付研究員、平成4年から21年3月まで日本医科大学准教授。現在、東京医療保健大学教授。癒しの環境研究会世話人代表。笑医塾塾長。著書に『笑いの医力』（西村書店）、『死に方のコツ』（小学館）、『生き方のコツ』（飛鳥新社）ほか多数。

むらかみ・かずお——昭和11年奈良県生まれ。38年京都大学大学院博士課程修了。同年米国オレゴン医科大学研究員。米国バンダビルト大学助教授などを経て、53年筑波大学応用生物化学系教授に就任。58年には昇圧酵素「レニン」の遺伝子の全暗号解読に初めて成功。遺伝子工学で世界をリードする研究者の一人。平成11年より現職。著書に『生命の暗号』『アホは神の望み』（いずれもサンマーク出版）、『心の力』（共著・致知出版社）など多数。